

序文 Preface

第5回「歴史的記録と現代科学」研究会を2018年3月22日（木）－24日（土）に国立天文台三鷹の講義室と大会議室で行った。相馬 充（国立天文台）の科学研究費補助金（基盤研究（C）：課題番号 15K05038）から旅費の補助を行った。出版印刷費は光赤外研究部から援助していただいた。「歴史的記録と現代科学」と題するこの研究会は、歴史的記録を使って現代科学における重要な結果を導くという点に重きを置く研究会で、2006年6月に第1回、2009年3月に第2回、2012年3月に第3回、2014年2～3月に第4回を開催した。今回はこれらに続く第5回である。これとは別に「天文学史研究会」と題する研究会も行っており、それは2006年1月に第1回、2008年12月に第2回、2009年12月に第3回、2011年1月に第4回、2016年3月に第5回、2017年3月に第6回を開催した。これまでは各回の研究会は2日間としてきたが、近年は研究が活発で講演希望者が多くなってきたので、今回は開催期間を3日間とした。各日とも朝から夕まで活発な議論が行われた。

今回は韓国からSang-Hyeon Ahn氏とChoi GoEun氏、中国からQu Anjing氏とMa Liping氏、インドからRamesh Kapoor氏とGeetha Kydala Ganesha氏、ニュージーランドからOckie Simmonds氏、ベルギーからFrederic Clette氏を招いて、各国の古代の天文記録や暦等に関する研究結果について講演していただいた。そのため1日目を英語セッションにした。英語での質疑も盛んであった。

初日の座長は大橋由紀夫、Sang-Hyeon Ahn、諫早庸一の各氏に、2日目の座長は谷川清隆、野上長俊、岩崎清美の各氏に、3日目の座長は藤原智子、平井正則、岡崎彰の各氏にお願いした。講演内容も多岐にわたり、質疑も活発に行われ、今回もたいへん有意義な研究会になった。このような研究会の開催にご協力くださった講演者や参加者の皆さんに感謝する。

本研究会開催に当たっては、海外旅費の手続きをすばる室の高本正美氏に、国内旅費の手続きを光赤外研究部の木村弘子氏に、それぞれお世話いただいた。研究会の準備・受付や旅費計算等はこのお二人に加え、すばる室の桑田ひとみ氏と野口倍美氏と末広曜子氏と三鷹市在住の呉英姫氏にお世話いただいた。光赤外研究部のWEBサイトへの研究会プログラム掲載はすばる室の山田徳美氏が、集録印刷費の見積もりと印刷の手配はすばる室の末広曜子氏と桑田ひとみ氏と柴田純子氏が担当してくださった。集録の口絵の写真のほとんどは坂井義人氏に提供いただいた。お世話くださった方々、集録作成にご協力くださった方々に感謝する。

集録の印刷では、予算の関係でカラーで印刷することができなかった。オンライン版では、カラーでご用意いただいた図はすべてカラーでご覧いただけますので、<https://www2.nao.ac.jp/~mitsurusoma/kenkyuukai.html>に掲載した集録もご活用ください。

研究会世話および集録編集：相馬 充，谷川清隆（国立天文台）